

【倉敷市立多津美中学校 グランドデザイン】

保護者・地域

- 基本的な生活習慣の改善
- 地域連携による協働
- 学校と信頼関係の構築
- 学校運営協議会連携

岡山県第3次教育振興基本計画「心豊かにたくましく、未来を拓く人材の育成」
 倉敷市教育大綱「『From Kurashiki』が誇りとなるひとづくり」
 倉敷市「よい子いっぱいのもち倉敷」～信頼と愛情に基づいたあたたかい心を基調として～

教職員

- 認め合う組織
- 支え合う組織
- 高め合う組織
- 上機嫌は職務

学校教育目標

「一人一人が主体的に正しく判断し、行動できる生徒」

(徳) (知) (体) (夢)

生徒像 ○健康で活気に満ちた生徒 ○心情豊かで、互いに磨きあう生徒 ○礼儀正しく、規律ある生徒

重点的に育成を目指す資質・能力

- ◎ **共生社会の一員**という意識・意欲・態度の育成
- ◎ **自己肯定感、コミュニケーション力**の育成
- ◎ **主体的に学ぶ意識の醸成、自己調整力**の育成

学校経営の基本方針

「**生徒が主役の学校創り**」

○一人一人の**資質・能力**を高める学校

○地域・保護者から**信頼される学校**

○教職員が生き生きと、**組織的に力を発揮**する学校

第1 何ができるようになるのか
(学校教育の基本)

- ・自分を大切に、人を大切にできる
- ・主体的に考え、正しく判断し行動できる
- ・自分の考えを豊かに伝える
- ・「学び」を生活に活用できる

第3 何が身についたのか
(学習評価を通じた学習指導の改善)

- ・人権意識の高まりと自己指導力の向上
- ・友への共感、違いに気づく力、学びの調整力
- ・根拠をもって問題解決方法を見出す力
- ・自分の考えを修正改善、再構成する力

第4 子どもの発達をどのように支援するか

- ・個を大切にしたい支援と**支え合う集団づくり**
- ・**自己肯定感**の醸成のための環境整備や場の設定(学級経営、学校行事を効果的に活用)
- ・個々の**学習の見取りの充実**(学びの調整力支援、タブレット活用による個々への対応)

第2 何を学ぶか(教育課程の編成)

- ・人権教育・道徳教育の充実
- ・情報発信力・コミュニケーション力の育成
- ・学び方を学ぶ教育(自己指導力、主体性)
- ・納得解を求める姿勢、情報活用(ICTの日常化)

第3 どのように学ぶか(教育課程の実施)

- ・人とのつながり、自身の生き方の学びの充実
- ・総合的な学習の時間、行事、特別活動等の系統的学びの工夫
- ・基礎・基本の定着(ICT活用・モジュール時間の工夫)
- ・**自分ごと**として考える学び(振り返りの充実)

第5 実施するために何が必要か(指導体制の充実、家庭や地域との連携・協議)

授業改善・研究推進、校内研修の充実(OJT)、家庭学習の充実、多様な交流学習・体験活動
 地域・保護者との連携、外部機関との連携・協力、地域素材・人材を生かした授業づくり

安心・安全を守る

人権教育・道徳教育の推進(情報モラル)、防災・防犯、人的・物的環境

開かれた学校づくり

学校だより、HPの情報発信、地域連携、かすみが丘会

<R6 年度 多津美中学校の重点取組>

「Chance Challenge Change」

生徒に チャンスを与え、チャレンジさせる。そして 変わる。

●互いの良さを認め合い、高め合う生徒の育成

「自己肯定感の醸成」(ほめて、認めて、感謝する)

- ・褒める = 「事実」+「感謝」+「価値」 この3点セットで価値づける
- ・コミュニケーション = (言葉、態度、身振り)×(相手への思いやり)

「道徳教育・人権教育の充実」

- ・生徒と共に、生き方を考える
- ・他者の多様な意見・考えから自らの考えを深める

「こころ」は見えないけれど

「こころづかい」は見える

「思い」は 見えないけれど

「思いやり」はだれにでも見える

「生徒主体の学校づくり」

- ・学校行事との連動、生徒会・委員会等リーダー意識の醸成
- ・キーワード「自分から」

2010 ACジャパン広告:詩人 宮澤 章二



●主体的に学び、自らの能力を高める生徒の育成

「学びへの意識づけ」

- ・心に生涯学び続けようとする灯をともし工夫
- ・個に応じたキャリア教育

「基礎・基本の充実」

- ・学びを支える基礎学力、学び方

「主体的で対話的な学び」

- ・一斉授業のみからの脱却、教師は伴走者
- ・PBLを意識した授業改革
- ・一人一台端末の活用推進

「学びのメタ認知」

- ・単元ごとの学びの価値づけ
- ・次の学びへとつなげる意識の習慣化

「学びを生徒に委ねる」

- ・単元を通した、評価計画立案と個別支援の充実

「カリキュラムマネジメントの工夫」

- ・総合的な学習と教科の連動、行事、特別活動と教科の連動などの計画



ICT 活用による
時間創出と
学びの支援



※ 研究授業の充実

※ OJT 研修の充実